



目次

- ・淡路島紀行（その4）サンセットライン.....藤川卓爾（pp.1-6）
- ・ウエスティングハウス社とアメリカ合衆国の思い出（6）.....中谷 博（pp.7-12）
- ・関東支部MOT（技術経営）セミナー『IHIそらの未来館』見学報告.....小森正輝（pp.13-14）
- ・京機S27洛悠会.....山本 巖（p.15）
- ・京機43会（京機会昭和43年卒同期会）.....瀧本正民（p.16）
- ・獅子の会/関西 夏の懇親会開催報告.....並木宏徳（p.17）
- ・研究室同窓会（落合庄治郎名誉教授古稀・北條正樹教授還暦お祝い会）開催報告
.....西川雅章（pp.18-19）

行事などのお知らせ

- ・10月6～21日：中尾美園 個展「あすの不在に備えて」（p.20）
- ・10月20日：文部科学省公開講演「国産ジェット旅客機MRJの開発」（中高生向け）
.....藤本健治・江利口浩二（p.21）
- ・11月10日：平成31年度 京機会総会（p.22）



恭仁宮跡のコスモス

©京都を歩くアルバム <http://kyoto-albumwalking2.cocolog-nifty.com/>

淡路島紀行（その4）サンセットライン

藤川卓爾（S42/1967/長尾研卒） takuji-f@gsc.gr.jp

淡路島の西海岸を県道31号線が走っています。この道はサンセットラインと呼ばれています。夕日がきれいです。

淡路サンセットライン沿線には、江崎灯台、日本で最初に流れ着いた香木を祀る枯木神社、夏場海水浴客やキャンプ客でにぎわう多賀の浜海水浴場、お線香の

香りただよう江井、五色浜、慶野松原などのスポットがあります。

ちなみに、地元では淡路島の西側のことを西浦と呼びます。(東側のことは東浦と呼びます。)

明石海峡大橋の淡路島側の袂の近くの淡路島最北端に松帆の浦があります。松帆の浦は小倉百人一首の「来ぬ人を まつほの浦の 夕凧に 焼くや 藻塩(もしほ)の 身もこがれつつ」に歌われています。この歌の作者は権中納言定家で小倉百人一首を選んだ藤原定家本人です。この歌は万葉集の「...淡路島 松帆の浦に 朝なぎに 玉藻刈りつつ 夕なぎに 藻塩焼きつつ 海人娘人(あまおとめ) ...」を元の歌(本歌)として作られたとのことです。

ちなみに百人一首ではもう一つ淡路島が読まれた歌があります。「淡路(あはぢ)島 かよふ千鳥の 鳴く声に いく夜寝覚めぬ 須磨の関守」。作者は源兼昌です。

松帆の浦の近くの丘の上に江崎灯台があります(写真1)。



写真1 江崎灯台

Wikipediaによると1867年(慶応3年)に幕府と英国公使は兵庫開港に備えて大坂約定(別名「大坂条約」)を結びましたが、その時に5つの灯台の建設を約束したうちの最初に建設されたのがこの灯台で、1871年(明治4年)に初点灯し、日本の洋式灯台では8番目のものだということです。

サンセットラインの道沿いに「緑の道しるべ」と呼ばれる公園が設けられています。一番北にあるのが江崎灯台の真下にある江崎公園です(図1、写真2)。



図1 サンセットラインの緑の道しるべ



写真2 緑の道しるべ江崎公園

(注意: 灯台の漢字は埼で公園の漢字は崎)

もう少し南下すると大川公園があります。この一帯は弥生時代から古代にかけて塩づくりが行われていた貴船神社遺跡が存在していました。兵庫県では初めての石敷き炉が確認されました。塩づくりに携わった古代人は万葉集や日本書紀に見られる野島の海人と考えられます。公園には古代塩づくり復元想像図や模型が展示されています（図2、写真3）。鉄製の釣り針やタコ壺などの海との繋がりを示す遺物や、朝鮮半島から運ばれたとされる新羅式の土器も出土しており、野島の海人と朝鮮半島との関係の深さも想像することができます。



図2 塩づくり復元想像図



写真3 塩づくり復元想像模型

また、塩づくりを行っていたと考えられる野島の海人像もあります（写真4）。この海人像には万葉集の山部赤人の歌が記されています。

「朝名寸二 梶音所聞 三食津國 野嶋乃海人乃 船二四有良信 朝なぎに
楫（かぢ）の音聞こゆ 御食（みけつ）国 野島の海人あまの 舟にしあるらし」



写真4 野島の海人像



写真5 室津公園

大川公園から南に行くと北淡震災記念公園があり、さらに南に行くと緑の道しるべ室津公園があります（写真5）。室津公園には魚のモニュメントがあります。ここでも夕日がきれいだと思いますが、私は江崎公園や大川公園や室津公園から夕日を見たことはまだありません。

さらに南に行くと枯木神社があります（写真6）。日本書紀によれば、推古天皇3年（595年）に香木が漂着し、島民がその木を焼くと良い香りが辺り一面に広がった。その香木は朝廷に献上され、聖徳太子が観音像を作ったとされ、その香木（沈香木）をご神体として枯木神社にお祀りしてあるといわれています。



写真6 枯木神社

<出典： <http://www.komainu.org/awaji/awajisi/kareki/kareki.html>>

さらに南に行くと緑の道しるべ郡家（ぐんげ）公園があります。ここは伊弉諾神宮の近くです。昨年冬至の日の夕日をここから眺めました（写真7）。この方向に宮崎県の高千穂神社があります。夕日の真下の岬が私の故郷の町の江井の岬です。江井の海岸からは秋分から春分の間は岬の影になって夕日が見られません。郡家公園まで来ると冬至の日でも夕日が見られます（写真8）。



写真7 冬至の日没



写真8 郡家公園と江井の位置関係図

江井は郡家から2km南西にあります。江井と郡家の間に多賀の浜海水浴場が整備されており夏は多くの海水浴客で賑わいます。江井には天然の湾があり、昔から港として利用されてきました。江戸時代の末期に大阪の堺から職人を呼んで線香作りを始めました。現在日本の線香の約70%は江井を中心とする一宮地区で生産されています。江井の町は昭和を感じさせる古い町並みですが、[写真9](#)のような夕日が見られる場所もあります。



[写真9](#) 江井の夕日



[写真10](#) 江井の海岸

私の故郷は江井の湾の一番奥にあります。家のすぐ裏が海岸です。江井の海岸は昭和の時代には海水浴場として賑わっていましたが、駐車場が少ないので多賀の浜海水浴場が整備されてからは余り大勢の海水浴客が来ず、プライベートビーチ状態です ([写真10](#))。

江井の海岸では春分から秋分までの間は瀬戸内海に沈む夕日が見られます。[写真11](#)は春分の少し前の夕日、[写真12](#)は秋分の少し後の夕日です。



[写真11](#) 春分の少し前の夕日



[写真12](#) 秋分の少し後の夕日

秋分から春分の間は夕日は江井の岬の影に隠れます。写真13は2月中旬に岬の影に沈んでいく夕日です。一方、夏至には小豆島の北側に陽が沈みます(写真14)。



写真13 2月中旬の夕日



写真14 夏至の少し前の夕日



写真15 1964年7月の都志の夕日

写真15は半世紀以上前に私が学生の頃、江井よりさらに南の都志の海岸で撮影した夕日です。

サンセットラインは都志よりさらに南の五色浜や慶野松原にも続きます。それぞれの地点で春夏秋冬それぞれの季節に応じた綺麗な夕日が眺められます。

(次号に続く)

ウェスティングハウス社とアメリカ合衆国の思い出（6）

中谷 博（S34/1959卒）

12. フロリダ半島一周旅行

我々研修生は、2週間の休暇を取ることが出来た。各々別の工場で研修をしていたが、この時は、一緒に1週間の休暇を使って、レンタカーでフロリダ半島をドライブ旅行する計画を立てた。フロリダ半島をドライブした地域を示す（写真6.1）。当初は、山下駐在員ご夫妻も同行の予定だったが、都合がつかなくなったの



写真6.1

で、我々研修生3人の旅行に変更になり、ピッツバーグ空港から飛行機で、フロリダ州のタンパ空港へ向かった。プロペラ機だったので、途中アトランタ空港に立ち寄った。夜中だったので、アトランタの景色は全く見えなかったのは残念であった。3月の中旬で、零下摂氏15度のバッファローから、途中一旦ピッツバーグを経由しているが、いきなり摂氏30度を超える、タンパ空港に降り立つことになった。少し違和感があったが、不思議なもので、約50度の温度差でも次第に体が適応していくようであった。タンパ空港で、レンタカーとして、白とブルーの2トーンカラーの「シボレーインパラ」を借りることにした。Avisレンタカーだったと思う。当時アメリカでは、HertzとAvisが二大レンタカー会社だった。シボレーは大衆車ではあるが、大きく新しいので、カッコよく見えた。エンジン音も非常に静かで、キーを回しても、よく聞こえないくらいであった。1960年頃の新車には、不思議なことに、変速装置がレバーではなく、プッシュボタンが使われていた。その後、プッシュボタンは使われなくなったようである。ボタンの操作ミスなど、安全性に問題があったのかもしれない。特に前進と後進が、ボタン操作一つで切り替わるのは非常に危険と思う。

タンパを出発して、フロリダの東海岸北部にあるセントオーガスティン (St. Augustine) へと車を走らせた。セントオーガスティンでは、美しい外観のFlagler Collegeという大学があった (写真6.2)。



写真6.2

セントオーガスティンから、フロリダ州の東岸のルート1 (北はメイン州から南はフロリダ南端まで続く国道) に沿って南下し、シルバースプリングス (Silver Springs) 自然公園へ向かった。シルバースプリングス自然公園では、船底がガラス張りのグラスボートで、水中の景観を楽しむと同時に、周辺の樹木や、そこに生息する動植物を眺めながら公園の自然を満喫することが出来た (写真6.3)。水の透明度が高く、水面を非常にくっきりと眺めることが出来た (写真6.4)。



写真6.3



写真6.4

車を運転して旅行する場合の宿泊は、「モーテル」を利用するのが非常に便利で、料金も安かった。当時、一人当たり約10ドルで、我々は3人だったので、2人は普通のベッドで、もう1人はエクストラベッドを交代で使用することが多かった。日本では、「モーテル」というと、あまり良くないイメージがあるが、アメリカでは、全く普通の簡易ホテルという感覚で、ドライブ旅行には非常に便利である。同じモーテルでも、非常に簡素なもの、か



写真6.5

なりデラックスな、ホテルと見分けのつかない大規模なモーテルも多く見かけた。我々が利用した簡素な構造のモーテルの一例を示す。レンタカーのシボレーインパラの横に関西電力の前田さん、すぐ後方にはモーテルの部屋が見える(写真6.5)。モーテルに設けられた駐車場とプールを示す(写真6.6)(写真6.7)。



写真6.6



写真6.7

1号線を南下し、広大な砂浜のあるデイトナビーチを左に眺めながら、さらに南下して宇宙センターのある「ケープカナベラル」に到着した。(この宇宙センターは、その後ケープケネディーに名称が変更されたが、現在はまた元のケープカナベラルに戻されている) 宇宙センターの近くで、ロケットの展示をしている所があった(写真6.8)。さらに宇宙センター近くまで車を走らせたが、行き止まりになっていて、更に進むことが出来なかった。ケープカナベラルから、国道1号線を南下してパームビーチに向かった。パームビーチは、アメリカの富裕層が多く、豪華な邸宅が立ち並んでいることで有名である(写真6.9)。パームビーチから、



写真6.8



写真6.9

さらに南下してマイアミビーチに近づいたところでMonacoという名のモーテルを見つけたので、泊まることにした。このモーテルは、2階建で部屋の数も多く、広い中庭があり、プールも備え付けられていた。このモーテルの裏側にはプライ

ベートビーチがあって、このビーチは宿泊客専用になっていた。駐車場は、普通のホテルと同じく、部屋とは離れた場所に駐車するようになっていた。モーテルの近くのビーチに出ると広々とした砂浜が美しかった。3月のフロリダでは、気温は高くても若者が少なく、老人が目立って多かったように思う。マイアミビーチには、非常に多くの豪華なホテルが立ち並んでいたが、写真に示すホテルは、その一例である（写真6.10）。マイアミビーチでは、観光の遊覧船に乗って、周辺のホテル群や富裕層の邸宅を見て回ったが、船内放送で、富豪の邸宅やその家族に関するゴシップ情報などを延々と観光客に聞かせていた。遊覧船からは、富裕層が所有している多くの邸宅が見られた（写真6.11）。遊覧船から航行中のクルーザーが近づいて来るのが見えた（写真6.12）。クルーザーが繫留されていた邸宅も多かった（写真6.13）。



写真6.10



写真6.11



写真6.12



写真6.13

マイアミビーチの観光を終えて、マイアミビーチからマイアミ市へ向かって車を走らせた（写真6.14）。高速道路の車の往来もあまり多くなく、快適なドライブを楽しむことができた。時間的な余裕があれば、文豪ヘミングウェイが滞在していた「キーウエスト」まで行きたかったが、無理と判断して、方向を北に転じて、セントピーターズバーグの方向へ車を走らせることにした。セントピーターズバ

ーグを通り抜けて、目的のサイプレスガーデン（Cypress Garden）に到着した。水上スキーのショーを見るために多くの観客が集まっていた（写真6.15）。



写真6.14



写真6.15

サイプレスガーデンは、その名の通り糸杉の樹が多く見られ、水辺が非常に美しかった（写真6.16）。水上スキーの出演者が、観客の前に現れた（写真6.17）。モーターボートに牽引されて、水上スキーのショーが、延々と繰り広げられた。初めは、少人数の構成で、踏み板を飛び越える技や空中に凧で舞い上がる技などを披露していたが、次第に構成人数が多くなって、華やかな水上スキーショーは終了した（写真6.18）（写真6.19）。



写真6.16



写真6.17



写真6.18



写真6.19

サイプレスガーデンの中に、Singing Towerという美しい塔がある（写真6.20）。U.S. Historic Landmarkに指定され、205フィートの高さのネオゴシックの建物で有名な建築家のMilton B Medaryと石の彫刻家Lee Laurieの作品ということである。60個の組鐘の音が、毎日、午後1時と3時に庭園中に奏でられる。サイプレスガーデンの観光を、この休暇旅行の最後として、ドライブ旅行の起点となったタンパ空港に戻ることにした。タンパ空港からは、今度はジェット旅客機でピッツバーグ空港へ向かった。今回の休暇が終ると、次はニュージャージー州のジャージーシティーにあるウエスティングハウス社の工場での研修が始まる。



写真6.20

（次号に続く）

関東支部MOT（技術経営）セミナー『IHIそらの未来館』見学報告

小森正輝（H20/2008卒）

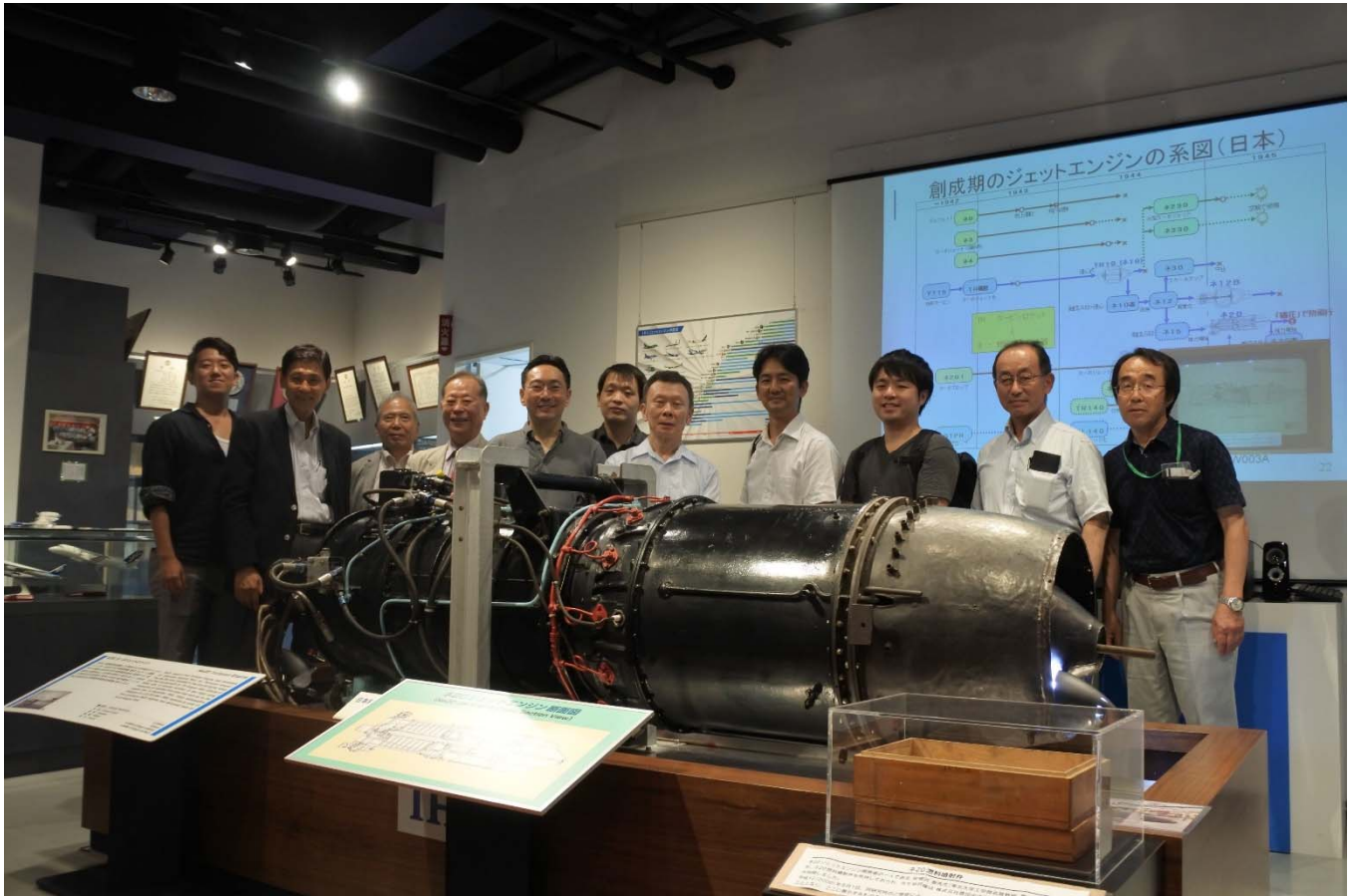
さる9月1日、京機会関東支部の若手会主催にてMOT（技術経営）セミナーを開催致しました。MOTセミナーは、各界でご活躍の諸先輩方にご講師を頂き、若手が通常の業務環境で得難い知識・思考の習得を目指すことを目標に2011年より開催をしており、今回で13回目となります。

今回は、(株)IHI回転機械取締役生産本部長、(株)IHI航空宇宙事業本部史料館長を歴任された増本雄治(S48/1973卒)様にご講師頂き、『IHIそらの未来館』(同社昭島事務所内)の史料館(田無工場時代の名残で社内では今もこちらで呼ばれるそうです)見学を実施致しました。関東支部のMOTセミナーとしては初の見学会スタイルでした。

当日は実際に史料館に展示されているモノを見学しながらジェットエンジンの歴史、またジェットエンジンの構造の進化や材料の変遷、さらに現在競合他社が力を入れている技術戦略の話まで幅広くご教示頂きました。普段の講演会とはまた違った雰囲気で大規模なジェットエンジンを目の前にするとその大きさや構造に目を奪われ、実際にモノに触れたことで湧いてくるいくつかの質問に対して一つ一つ丁寧に説明して頂きました。2時間かけて史料館の中を1周しましたが、ジェットエンジンに詳しい方はもちろん、そうでない方も見識を広げることができ非常に有意義な時間を過ごさせて頂きました。この場をお借りし、素晴らしいご講演を頂きました増本様に感謝を申し上げます。

京機会関東支部の若手会では、諸先輩方のご貴重な経験の若手への伝授を目指し、今後も本セミナーを開催して参ります。若手の皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。





第二次世界大戦末期に開発された
わが国初のターボジェットエンジン「ネ20*」の前で
左から、小森正輝、道浦吉晴、浜本浩志、川崎芳樹、高橋俊雄、范 博、
鶴田和博、岡部基彦、松田脩平、宮地 豊、増本雄治（講師）
（敬称は省略させていただきました）

*）太平洋戦争中に設計されたジェットエンジンの名称として、たとえば「ネ20」と「ネ-20」の二つの表記があります（「ネ」は「燃焼」に由来します）が、前者のハイフンなしが海軍式、後者のハイフンありが陸軍式の呼び名であるようです。また、読み方については、「ねのふたまる」と呼ばれることが多いようですが、NHK番組スポットライト「ジェットエンジン ネ-20」（1976年9月16日放送）では、生みの親である永野治氏と種子島時休氏が、それぞれ「ネ20」／「ネ10」のことを、「ねのにいまる」／「ねのいちまる」と呼んでおられるので、2／1の数字を「ふた」／「ひと」と呼ぶと必ずしも定まっているわけではないようです。ただ「にじゅう」／「じゅう」とは呼ばないようです。（編集人）

京機S27洛悠会

山本 巖 (S27/1952卒)

2017年10月11日、東京「丸の内 ポールスター店」にて同窓会を開催しました。出席者は荒川、岩崎、小林、山本夫妻で会員は4名でした。

我々は正月に近況その他を年賀状に託して集め、更に趣味や写真或は各自の考えていること原稿をサロンと称していますが、投稿してそれらをすべて一冊の小冊子として会員に年に一度、配布しております。ですから、会員間の意思は良く通じています。

併し、我々は90歳前後になりました。活動出来る会員は減ってきます。2017年末で生存率は40% (卒業時は40名) です。でも我々の繋がりは固くて楽しいです。ルーツは昔の設計室にあると私は思っております。郊外でも嵯峨野やぽんぽん山等の散策、比叡山、今津のスキー、琵琶湖のヨット。思い出せば楽しいことは多く、更に長生きしそうに思っております。



後列：荒川不二、岩崎恵二

前列：小林富美彌、山本巖、山本夫人

京機43会（京機会昭和43年卒同期会）

瀧本正民（S43/1968卒）

京機43会（京機会昭和43年卒同期会）は、毎年、関東、中部、関西などで幹事を回り持ちして開催していますが、卒業50周年を迎える今年は、中部地区が幹事で、「健康、保養、親睦と高級うなぎ飯をお値打ちに実現すること」を狙いに、9月13日～14日、浜松周辺の観光も含めて開催しました。トヨタ健康保険組合の保養所・浜名湖荘で親睦を深めた翌日、おんな城主・井伊直虎で有名になった龍潭寺周辺や航空自衛隊のエアパークを見学し、浜松駅近くの老舗うなぎ料理店で高級うなぎ飯を堪能した後、解散し、その後は、それぞれ、近くの楽器博物館を見に行ったり、新幹線で家路に向かったりでしたが、楽しい二日間でした。

中部地区幹事：加藤健治、瀧本正民、中西 清、
新美友治、御子柴茂太、渡瀬善次郎



名村 清 大西良弘 三原 豊 河崎忠弘 百々一成 加藤健治 熊澤正博 井上 淳 木内誠司 木内令夫人
谷口 寛 吉村允孝 來田浩毅 御子柴茂太 江藤孝治 山本督典
中西 清 渡瀬善次郎 新美友治 瀧本正民 宇野義幸 志摩 亨 岩名正文

獅子の会/関西 夏の懇親会（8月28日）開催報告

並木宏徳（S44/1969卒）

獅子の会（昭和44年卒同期会）は関東と関西でそれぞれ年数回ずつ開催しています。関西ではゴルフ会を春と秋、飲み会を夏と冬と日本の四季を味わう趣向で、今回は夏の懇親会を8月28日（火）福島清司氏のお世話で神戸・三宮の中華料理「意縁」で14人が集まって愉快的な時を過ごすことができました。若い美人の二人の店員さん（上海・重慶出身だそうです）の付き切りサービス、料理も美味しく部屋も貸し切り状態でしたから盛り上がる条件が揃っていたのですが、芦田氏の提案で30分毎に座席を移動するお見合いスタイルの会となり大いに旧交を温めることができました。次回は秋のゴルフを山本健一氏のお世話で10月2日（火）北六甲ゴルフクラブにて開催します。冬の飲み会は名和基之氏のお世話で3月5日（火）、奈良での飲み会+東大寺のお水取りという趣向になりそうです。参加希望の方はそれぞれの世話役（10/2 山本健一氏kenya.kobe@gmail.com、2019/3/5 名和基之氏nawa-moto@kcn.jp）までご連絡ください。



野口満之 山本健一 鴻野雄一郎 岸本皓夫 小谷重遠 柴田敏郎 高林重信
芦田好知 鳥羽克彦 神田 剛 林田 甫 名和基之 並木宏徳 福島清司



研究室同窓会（落合庄治郎名誉教授古稀・北條正樹教授還暦お祝い会） 開催報告

西川雅章（H15/2003卒）

落合名誉教授・北條教授のお祝い会として関連のOBの方の同窓会が、平成30年9月2日（日）15時半からホテル京阪京都グランデ（2階光林）で行われました。

お忙しい時期の中、企業や大学の第一線でご活躍されている多数のOBの方から今年修了した若いOBまで総勢約50名の方がお祝いに駆けつけました。

会の中ほどでは、落合先生・北條先生のOBの皆様がご記憶のちょっと気恥ずかしいエピソードも交えたエピソードクイズを田中基嗣先生が企画され、両先生のお人柄が伝わる懐かしいエピソードに会場が一体となって盛り上がりました。オプションツアーとして北條先生がガイドを務めた京都鉄道博物館ツアーでは、先生が長年にわたり蓄えられた蘊蓄を存分に披露され、参加者ともども新たな視点を得つつ鉄道世界の深い魅力に魅了されました。またお祝い会で北條先生がご紹介されたお気に入りの写真に、若い頃の夢に思いを馳せる姿を垣間見ました（以下の写真をご参照ください）。

アドレス不明でご連絡が取れていないOBの方もいらっしゃいました。またお手すきの折に、担当 西川 nishikawa@me.kyoto-u.ac.jp までご連絡をいただけますと幸いです。





中尾美園 個展「あすの不在に備えて」のお知らせ

2010.2～2013.9のあいだ京機会事務局（第二世紀記念事業会を含む）でたいへんお世話になりました中尾美園さんの個展が開催されます。



<http://www.eonet.ne.jp/~nakaomien/>

http://www.kcua.ac.jp/event/20181006_nakaomien/

http://www.kcua.ac.jp/wp-content/uploads/suujin_05_20181006_nakao.pdf

会期：2018年10月6日(土)～10月21日(日)

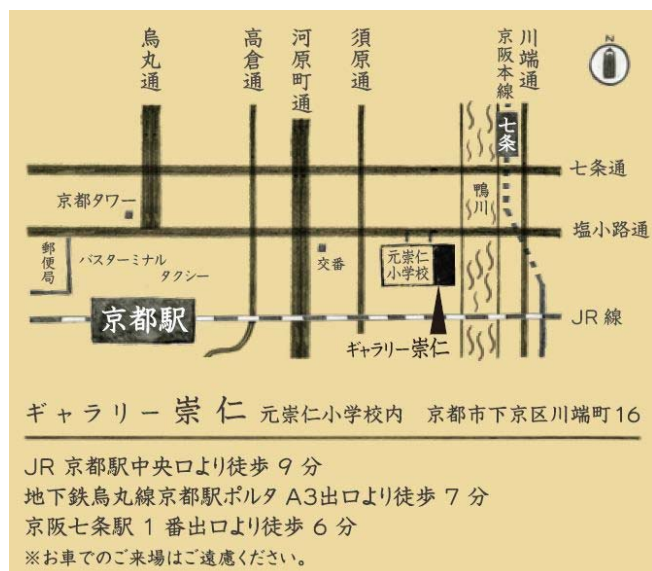
休廊：木曜日および10月15日(月)休廊

時間：12時～19時

(土・日・祝休日は19時まで)

会場：ギャラリー崇仁（元崇仁小学校内）

主催：京都市立芸術大学



文部科学省公開講演「国産ジェット旅客機MRJの開発」のお知らせ

藤本健治（H6/1994卒）・江利口浩二（H1/1989卒/航空宇宙工学専攻長）

航空宇宙工学専攻では、以下の講演会を企画しております。対象は中高生となっておりますので、お近くに該当の方がおられましたらぜひお知らせください。

日時：2018年10月20日(土)15:00-16:30

場所：京都大学 桂キャンパス C3棟 1階 講義室1（下の地図の緑部分）

講演者：三菱航空機(株)子守 康裕 氏

研究室は空気力学研究室（1995/H7卒櫻井研）

講演題目：国産ジェット旅客機MRJの開発

概要：国産ジェット旅客機MRJは、現在、2年後の初号機納入に向け、飛行試験を含む各種試験が行われている。本講演では、構造設計を中心にMRJ開発について概要をお話しし、民間航空機開発の難しさ、やりがいなどをお話ししたい。

参加費：無料

参加資格：高校生・中学生

申込・詳細：<https://u.kyoto-u.jp/mrj>

問合せ先：藤本健治 (Email: seminar.kuaero@gmail.com)



文部科学省宇宙航空科学技術推進委託費
「英機飛行を導いた航空英機教育の展開」公開講演

国産ジェット旅客機 MRJの開発

講師 三菱航空機(株) 子守 康裕 氏



© 三菱航空機(株)

平成30年10月20日(土)
時間 15:00~16:30
会場 京都大学 桂キャンパス C3棟 講義室1



主に高校生の方を対象とした講演会です。
参加費は無料ですが、事前の申し込みが必要です。
お申し込みはHPから <https://u.kyoto-u.jp/mrj>

お問い合わせ先
京都大学 航空宇宙工学専攻 藤本 健治
seminar.kuaero@gmail.com



<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/access/katsura>

平成31年度 京機会総会開催のご案内

本大会を下記により開催いたします。出席下さいますようご案内申し上げます。

日時：平成30年11月10日（土） 14：20～19：30

会場：〈総会〉 京都大学吉田キャンパス物理系校舎 3F 313室

〈講演会〉 百周年時計台記念館 1F「百周年記念ホール」

〈懇親会〉 百周年時計台記念館 2F「国際交流ホールⅠ・Ⅱ」

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 電話：075-753-2285（百周年記念館）

行事：〈大会受付〉 13：30～ 物理系校舎 3F 313室前

1. 京機会総会 14：20～15：40

2. 技術講演会 16：00～17：20

「ロボティックスの可能性と限界」

浅田 春比古氏 < S48、マサチューセッツ工科大学 教授 >

50年前はほんの僅かな研究者が集う小さな研究分野であったロボティックスが、今や一大科学技術分野へと発展し、私達の暮らしや将来の社会の在り方まで、色々影響を及ぼすようになりました。こうしたロボティックスの発展の原動力と今後の飛躍・進展の可能性、並びに課題と限界について、3つの観点からお話しします。

- 1) 周辺技術を取り込む方法論
- 2) 脳科学とロボット人工知能の共演
- 3) データサイエンスとロボティックス

MITで開発されたユニークなロボットを紹介するとともに、残された課題と安全性、方法論の限界についてお話しします。



3. 記念写真撮影 17：20～17：30

4. 懇親会 17：45～19：30

5. 会費（懇親会費）：一般会員 6,000円 学生会員 2,000円
同伴者（高校生以上） 2,000円（中学生以下） 無料

- **ご家族の参加も歓迎いたします。** ご家族参加の場合は、大会参加申込時にその旨ご回答下さい。
- **自由な服装でお越しください。**
- **10月31日(水)までに、京機会HP (<http://www.keikikai.jp/>)からの参加申込をお願いします**
- **本年度の京機会総会は、京都大学同窓会に共催いただいております。**

学生会企画「先輩に学ぶ」のご案内

本年度は、総会同日に学生会企画も開催いたします。

「一つの企業に定年退職まで勤め上げる」という典型的なキャリアではなく、学部・大学院で習得した機械工学、物理工学等の知見を活用しつつも、必ずしも一所に留まらず、多様な業種、多様な分野に貢献し続ける新たなキャリアパスについて、先輩方から話をお伺いする企画です。

参加対象は学生会員としておりますが、若手会員や会員ご家族もご参加いただけます。

日時：平成30年11月10日（土） 14：20～15：40

会場：京都大学吉田キャンパス物理系校舎 3F 315室